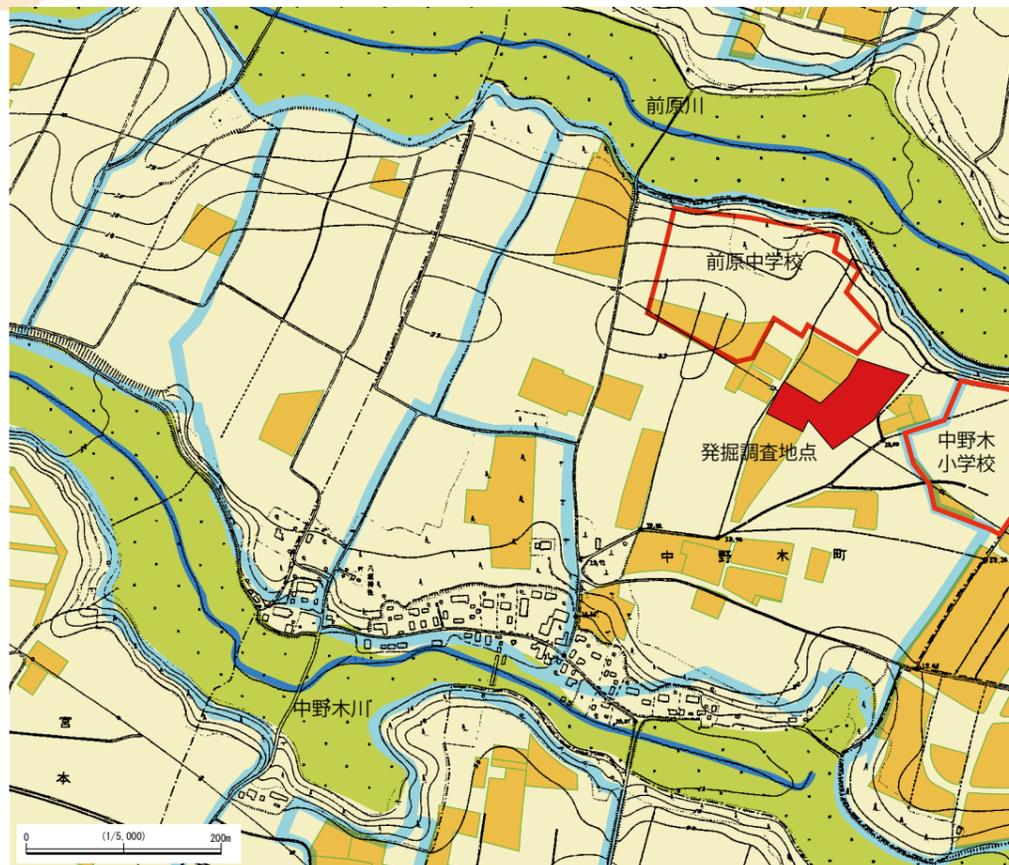


# 中野木台遺跡 (19) 遺跡見学会

平成 28 (2016) 年 7 月 12 日 (雨天 13 日)

遺跡というときみなさんはどんな場所をイメージしますか？ 遺跡は皆さんの身近な場所にもあり、船橋市内では大小様々な発掘調査が年間 30 件以上行われています。

## 遺跡がある場所はどんなところ？



今から約 60 年前の地図に遺跡範囲・調査地点を合成。赤は今回調査地点、オレンジはこれまでの調査地点

中野木台遺跡は標高約 19～21 m の台地上にある遺跡です。

船橋市の南部は東京湾に面して台地が並んでいて、台地上には旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世など各時代の遺跡がたくさんあります。中野木台遺跡のある台地は北に前原川、南に中野木川が流れています。昔の人の暮らしの痕跡は、川などの水に近いところから多く見かかっています。

中野木台遺跡ではこれまでに 20 回の発掘調査が行われています。

## 二つの時代の縄文人の暮らし

今回の調査では縄文時代の二つの時期の生活の痕跡が明らかになりました。今から約 11000～7000 年前の縄文時代早期と、今から約 4800 年前の縄文時代中期の人々が地面に残した生活の痕跡を見てみましょう。



ファイヤーピット

### 縄文時代早期 (今から約 11000～7000 年前)

今回の調査ではこれまでに、焼けた土が入った楕円形の穴が 5 基みつかっています。

これはファイヤーピットと呼ばれる、縄文時代早期 (今から約 11000～7000 年前) の縄文時代の人々が火を燃やし、土器を使用して煮炊きを行った痕跡です。



### 縄文時代中期 (今から約 4800 年前)

縄文時代中期後半 (今から約 4800 年前) は、縄文時代早期よりもたくさんの遺構と遺物がみつかっています。

これまでに見つかった主な遺構は、  
 竪穴住居 5 軒 (地面を掘り込んだ家の跡)  
 小竪穴 4 基 (地面を掘り込んだ貯蔵施設) があります。

見学してもらう住居には、中央に火を炊くための炉があります。炉を頑丈なものにするために、土器を埋めていたこともわかりました。住居の直径 7.5 m、住居の円周に沿って 8 個の柱穴 (屋根を支えるための柱を立てた穴) がみつかっています。



炉を発掘した状態

## 縄文時代の人々の食べ物

小竪穴は貯蔵のための施設と考えられていますが、貯蔵されていたものはなかなか発見されませんが、小竪穴が使用されなくなった後、貝殻が捨てられていて、これらは一緒に出てくる土器から縄文時代の人々が食べたモノを捨てていたということがわかりました。



小竪穴に捨てられていた貝



イボキサゴ

ハマグリ

遺跡から出土した貝 (実物大)

縄文時代の人々はどんなものを食べていたのでしょうか。大昔のことなので実際に食べたいものは腐ってなくなっていますが、貝殻は腐らずに残るため縄文人の食生活を知る手がかりになります。貝はハマグリやオキアサリ (二枚貝)、イボキサゴ (巻貝) などが出土しました。ハマグリは今でも食べる貝ですね。

## おわりに

このように中野木台遺跡 (19) では、中野木の台地に暮らした縄文時代の人々の生活が明らかになりつつあります。発掘調査はこの後も 7 月いっぱい続く予定です。

！さらに知りたい人は！

市内には縄文時代をテーマとする飛ノ台史跡公園博物館があります。ぜひ訪れてみてください。

掲載データは 7/12 現在のものです、変更になる場合があります。

船橋市教育委員会 生涯学習部 文化課・埋蔵文化財調査事務所